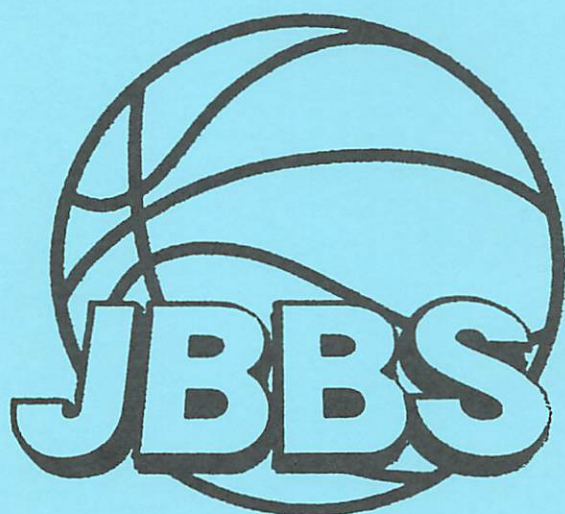


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:48



2011年2月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかさに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。

ウエーブホープネオ

希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。

目 次

○ 全日本総合選手権大会結果	3
○ 全日本総合選手権大会を願みて 更に大会を充実させるための提言座談会	6
○ ウインターカップ2010 第41回全国高校選抜優勝大会結果	12
○ 第16回アジア競技大会 男子4位、女子は銅メダル	15
○ 人物現代史「李相佰」 韓国KBSテレビ放映番組要訳	歴史部 18
○ 日本バスケットボールの歴史保存構想	歴史部 20
○ 会員だより 私のバスケットとのかかわり スペシャルオリンピックス日本 ナショナルゲームに参加して	関根正司 22 吉田 聡 24
○ 書評・感想文 「日系二世のNBA」	歴史部 27
○ JBLレギュラーシーズン途中成績	29
○ WJBLリーグ戦は大詰め	31
○ bjリーグも佳境に入る	34
○ 訃報・追悼文	36
○ プラザ こぼればなし	37

全日本総合選手権大会結果

男子優勝 アイシンシーホース 大会4連覇

女子優勝 JXサンフラワーズ 大会3連覇

[編集部]

第86回天皇杯、第77回皇后杯、全日本総合選手権大会（オールジャパン）は、お正月の2日から東京体育館、代々木第一体育館および第二体育館で開催され、9日代々木第一体育館における女子決勝戦、10日の男子決勝戦をもって幕を閉じた。

今回の大会も男女それぞれ32チームによるトーナメント方式であったが、JBL、WJBLチームに対して学生や社会人チームなど、他のチームがどこまで食い下がることできるかが注目された。男子では学生1位の「青山学院大学」と同3位の「東海大学」がベスト8に勝ち進むべく善戦したがいずれも外国人選手を有するJBLチームに阻まれた。

女子では高校選抜大会で優勝した「札幌山の手高校」が大学チームを2校破って3回戦に進出し、次いで社会人代表の「山形銀行」がWJBLの「日立ハイテク」を破ってベスト8に勝ち上がり、それぞれWJBLの「JXサンフラワーズ」に挑んだ。これらのチームはJXには一方的に敗れたものの選手たちは大変な満足感であり、全体的に充実した試合が目立った。

男女とも決勝戦に勝ち残ったチームは、かたや昨年の優勝チームだったが対戦相手は昨年と異なるチームとなり、その試合内容も男子は延長戦、女子も最後まで勝利チームがわからない大接戦となり、大勢の観衆とともにテレビ観戦をしたファンの方々を魅了した結果となった。

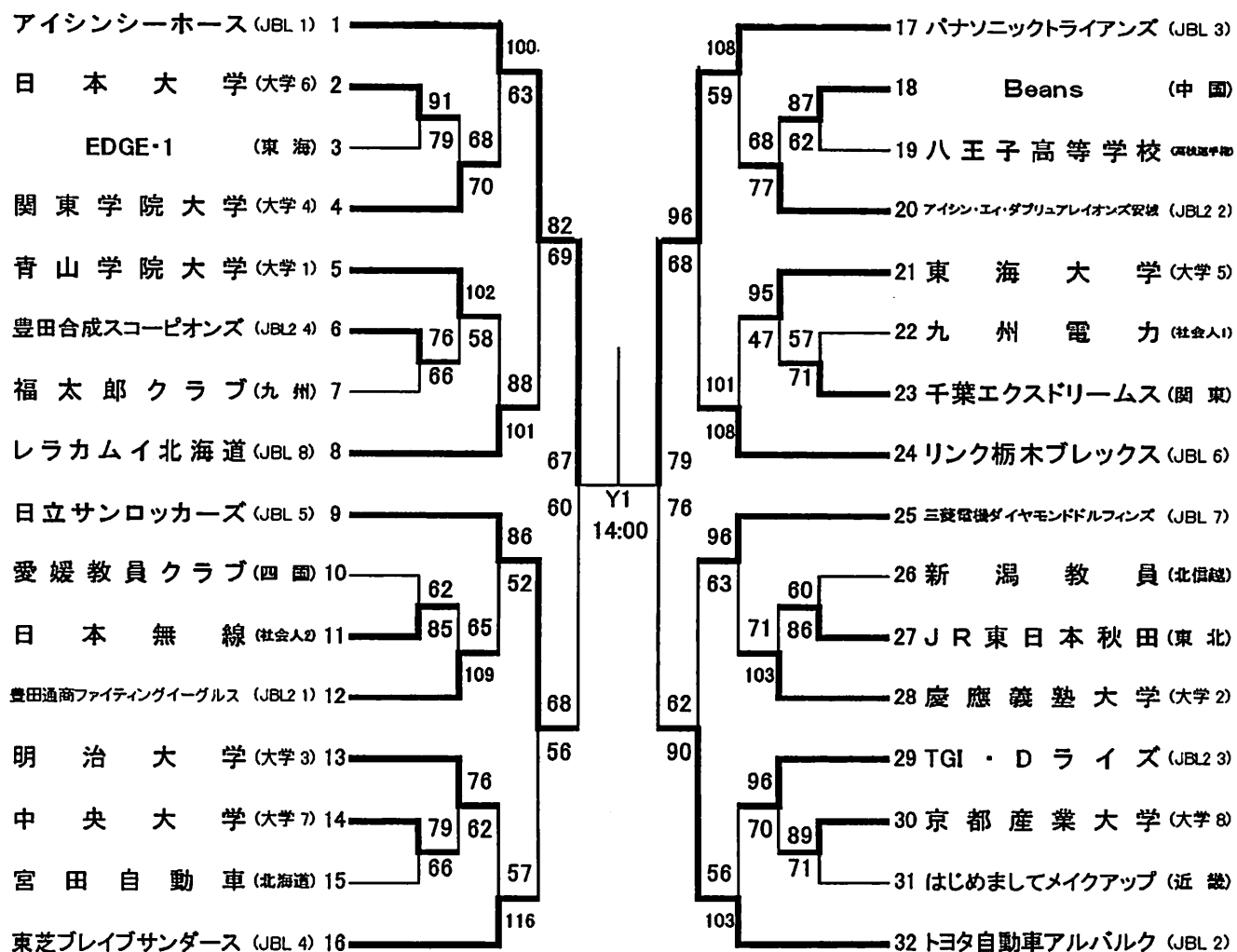
こうして国内で各チームが切磋琢磨することによって、日本全体のバスケットボールレベルも上昇傾向にあり、これからの国際舞台での飛躍が期待される。

[男子決勝]

チーム \ P	1	2	3	4	OT	計
アイシンシーホース	21	17	18	14	11	81
パナソニックトライアンズ	11	18	21	20	4	74

4連覇を狙うアイシンと14年ぶりの優勝を目指すパナソニックの戦いとなった決勝戦は、第1ピリオドからアイシンが#10 竹内の3Pやリバウンドなどでリードを広げる。パナソニックも#6 永山や#1 木下らのシュートで食らいつくといったゲーム展開。前半は38対29でアイシンリードで終わるが、第3ピリオドでじりじりと差が詰まりはじめ、第4ピリオド中盤パナソニックの猛攻に合い一進一退の展開になる。その後パナソニックは#6 永山の3Pシュートで69対70と逆転に成功、競り合いが始まる。その後アイシンは何度も突き放すチャンスを得るが、フリースローが4本中1本しか入らず70対70で延長戦に入る。延長戦でも一進一退の展開が続くが残り1分強になったところでアイシンが1ゴール抜け出すとパナソニックはずるずると後退、その後パナソニックのファウルゲームとなったが、アイシンがフリースローを決めて競り勝った。この決勝戦では両チームとも終盤にシュートミスがあつて、なかなか思うように得点が伸びなかったことが響いた展開であった。

男子結果

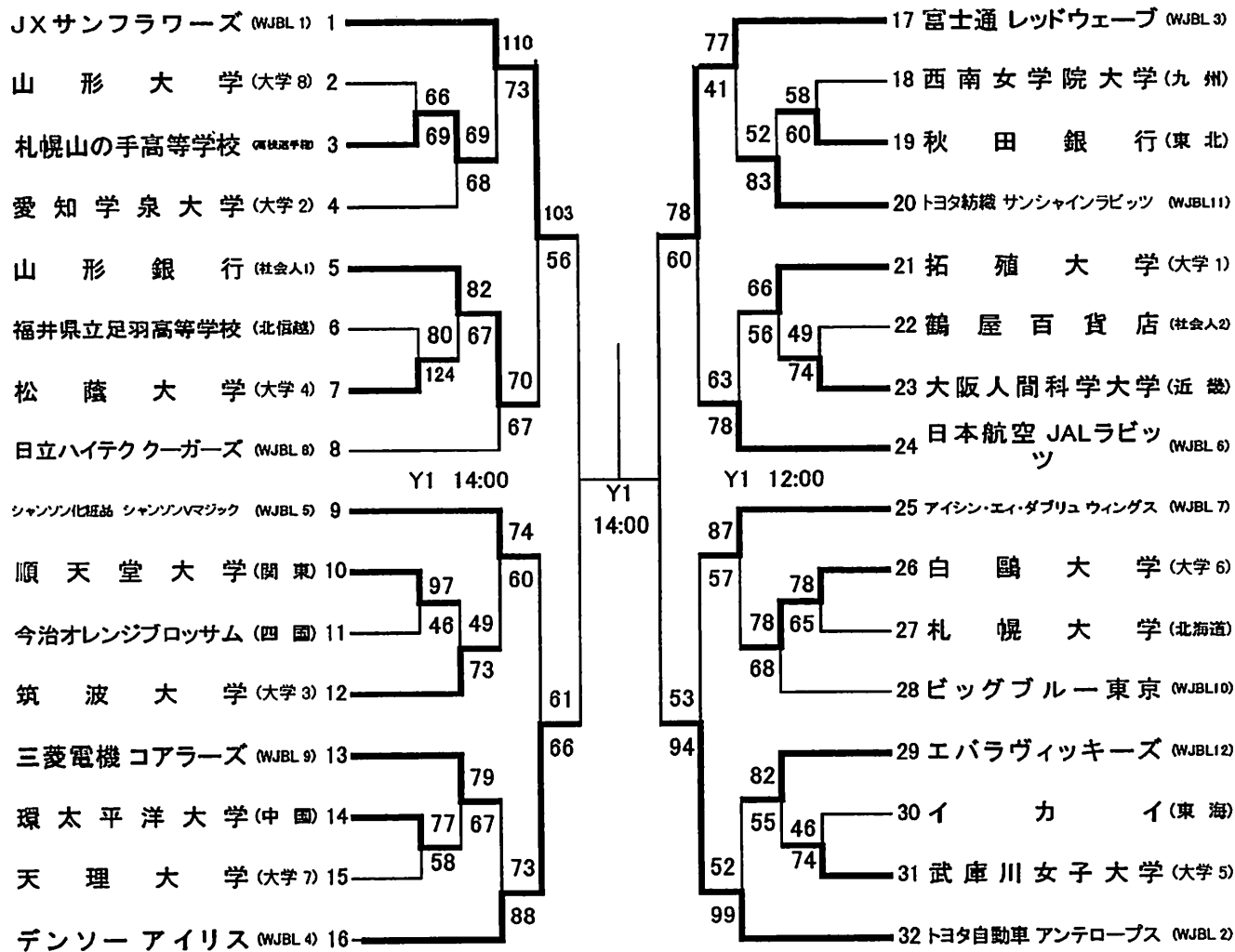


【女子決勝】

チーム \ P	1	2	3	4	計
J Xサンフローズ	15	12	26	20	73
富士通レッドウェーブ	13	15	23	17	68

3連覇を狙うJ X（旧J OMO）と富士通との戦いとなった決勝戦は、第3ピリオドまでどちらも抜け出すことができず一進一退の攻防が続いた。J Xは#1 大神と#12 吉田がチームを牽引し、身長190cmの#10 渡嘉敷のインサイドとアウトサイドにおける活躍が目立つ。一方富士通も#8 鈴木や#12 篠原のシュートなどで互角に戦い、第3ピリオドを終えたところで53対51の1ゴール差。第4ピリオドJ Xが諏訪のインサイドシュートなどで61対54と一時リードするが、残り6分に富士通も#22 立川の3Pシュートで61対61の同点とする。残り1分にJ Xが吉田と渡嘉敷のシュートで3点リードすると富士通がタイムアウト。この後一挙に同点を狙った富士通が攻撃に失敗し、J Xがフリースローを決めてこの試合を決着した。

女子結果



大会結果

男子

優勝 アイシンシーホース

4年連続8回目

個人ベスト5

男子

竹内公輔 アイシンシーホース
 桜木ジェーアール アイシンシーホース
 木下博之 パナソニックトライアンズ
 永山 誠 パナソニックトライアンズ
 タイラー・スミス 日立サンロッカーズ

女子

優勝 JXサンフラワーズ

3年連続16回目

女子

大神雄子 JXサンフラワーズ
 渡嘉敷来夢 JXサンフラワーズ
 吉田亜沙美 JXサンフラワーズ
 篠原 恵 富士通レッドウェーブ
 名木洋子 富士通レッドウェーブ

全日本総合選手権大会を顧みて

更に大会を充実させるための提言座談会

[編集部]

平成22年度全日本総合選手権大会が去る1月2日から10日まで開催された。編集部取材担当が観戦した方々から聞いた感想などから、この選手権大会で更に改善したほうが良いと思われる問題点が浮き彫りになってきた。

そこで編集部では大会を観戦された下記の有識者にお集まりいただき、今後の大会やバスケット界発展のためにはどうしたらよいのか率直なご意見をお聞きすることとし、1月26日に振興会事務所において座談会を開催した。

出席者 (アイウ順)

- | | |
|--------|--|
| 黒川 敏雄氏 | 実業団連盟常任顧問、三菱銀行OB |
| 日比野 明氏 | 元日本協会専務理事、元国際審判員、1971年女子世界選手権大会決勝審判員を務める |
| 増田 稔氏 | 朝日新聞社OB、高校選抜大会開催に尽力し朝日新聞後援を実現 |
| 従野 明宏氏 | 元全日本女子代表監督、第一勧銀監督時代に二度の全日本制覇
元学習院中・高校校長 |

司 会

- | | |
|--------|--------|
| 佐藤 精孝氏 | 本誌編集部長 |
|--------|--------|

佐 藤 正月恒例のオールジャパンが1月2日から10日まで開催されましたが、大会の運営についていろいろな意見が出ているようです。そこで当振興会では、何度も会場へ足を運ばれた皆さんにお集まりいただき、更に充実した大会に向けて率直なご意見を伺いたいと思います。最初に大会全体の運営についてご発言をお願いします。



従 野 何度も観戦に行きましたが、準決勝戦以後を除いて今ひとつ盛り上がりには欠けているように感じました。特に代々木第一、第二体育館において2試合毎に観客の入れ替えを行っていましたが、あれはどうかと思います。観客が満員の状態ならまだしも、300人程度の入場状態で入れ替えを行うのは、観戦に来られたファンに対して不愉快な思いをさせるだけではないでしょうか。現に私の近くにいた中学生たちは、高い入場料金をとられていたせいか憤慨していましたよ。

黒 川



観客を大切に扱うところはbjリーグの方が心得ていますね。bjリーグでは、ファンを一人でも多く作りたいから熱心に研究しています。私の提言としてもオールジャパンでの観客入替制は賛成できません。仮に入れ替えるとしても応援団席のみ対象にするとか工夫次第でいろいろなやり方があるのではないのでしょうか。高校選抜大会の応援団席などは入れ替わってうまくいっているのですから。

増 田 久しぶりに高校選抜大会を含めて会場へ足を運びました。高校選抜大会は毎日数千人の入場者で賑わっているのに、オールジャパンの最初のほうは殆ど観客がいない。日程や会場、大会規模などそろそろ検討し直す時期にきているのではないかと感じました。

黒 川 1月2日、初日に東京体育館へ行ってみましたが、あの広いところで観客が殆どいない状態では出場するチームも張り合いがないと思います。日本協会では大会1～2回戦に対する集客方法を検討したほうがいいと思いました。

日比野



昔は初日から代々木体育館だけで開催していました。会場が明治神宮に近いこともあって、初詣にきた方々が大勢入って大変な賑わいでした。また出場チーム数も絞っていましたが、初日から日本リーグチームと学生が対戦したりして、試合内容も充実していたように思います。

バスケットボールの普及を前提に、観客を大事にする意味からも入替えはしない方がいいでしょう。準決勝以上は無理としても小中学生などはむしろ無料で観戦してもらったほうが将来につながっていくのではないのでしょうか。

従 野 協会役員の方々がバスケットボールの普及ということを、どれほど考えておられるのか疑問を感じます。300名程度の観客を入れ替えたところで入場料収入が増えるとは思われません。それよりももっとファンをたくさん作ることが大切で、協会役員の方が入替え現場の雰囲気を見たり感じたりしてもらいたいですね。運営の一部をイベント業者が担当していることもあって、協会の意思が観客に伝わらず全体的に冷たい感触を受けました。

増 田 代々木第一体育館でオールジャパンをやっている最中に第二体育館でbjリーグを開催していました。日本で最高の大会を開催しているとき、すぐ隣で別のバスケットボール大会を行うことは決して良いとは言えず、他のスポーツでは考えられません。事前に調整すべきではないですか。

従 野 木内さんが専務理事になってから、オールジャパンの表彰式にかつてのオリンピック選手を招請してプレゼンターをお願いしていましたが、これは素晴らしいことだと思いました。ところが最近ではその人数も少なくなり、会長が表彰式に来ないなど今ひとつ盛り上がりには欠けています。

もうひとつ言えばプレスの方々をもっと大切に扱った方がいいと思います。メディアに少しでも多く露出してもらうためにはそれなりの努力も必要です。

日比野 バスケットボールの普及と将来のことを考えたとき、決勝戦の前にミニバスのゲームを入れたらよいのではないかと思います。それと決勝戦終了後、表彰式までの時間もかかりすぎですね。もっとスムーズにできないものなのでしょうか。

増 田



メディアの側から云いますと広報部が行っている、ピリオド毎の詳細データの配布とか試合終了後のゲームレポート配布など大変努力されている点は評価できますが、記者席の配置とか会場へ入るときの手続きなど、もう少し工夫、便宜を図って欲しいところもあります。新聞紙面などに多く取り上げるには話題性が必要で、単なる試合経過だけでは記事になりにくいということは云えると思います。

昔は各チームとも中心になる選手が1～2名いましたので、その選手を取材したり追っかけたりして囲み記事などを書いていましたが、現在の男子の場合などは中心選手

が外国人選手になってしまうので、記事になりにくいのです。特徴のある日本人選手が欲しいですし、試合の中でも外国人選手に振り回されている感触です。

佐藤 次に出場チームのバスケットの技術的な観点からお話をお願いできますか。

従野



選手個々のプレーは確かに上手になっていますが、ゲーム内容が単純すぎるような気がします。どちらかと云えばその試合でシュート確率のいいチームが勝つといった具合で、オフェンスをもっと工夫するとか、日本独特のバスケットを活かすような速い動きとか、徹底したパスワークによるオフェンスなど、日本で最高の大会なのですからもっと中身の濃い試合が望まれます。昨年開催された女子世界選手権では、速いプレーや全員が速く動くなどして日本らしいバスケットボールを展開しましたが、オールジャパンでもそうしたプレーを見せてもらいたいものです。

日比野 準決勝、決勝へと進むにしたがって両チームの得点合計が少なくなっています。男子の試合で両チーム合わせた得点が130点程度では面白くないですね。トーナメントだから慎重になっているのか、ディフェンスに頑張られると得点が落ちるということなのかもしれませんが、国際的に対抗するにはもう少しシュート技術を磨く必要があるでしょう。

佐藤 男子の準決勝以上ではデータの的にもシュートの確率があまり良いとは言えませんね。得点が少ないことはディフェンスが良くなっていることかもしれませんが、パスミスも多いですね。以前から比べればシュートの技術は良くなっていると思いますが、シュートを打つ本数も多くなっていますので技術的に向上していると云えますかどうか。女子の試合ではドリブルが少なくなっ、て、パスワークによるプレーが多くなっていたので良い方向だと感じました。

佐藤 次に審判についてはいかがでしょうか。

日比野 先ほどからゲーム内容が盛り上がり欠けると云った話がありましたが、ゲームを盛り上げることも審判技術のうちだと思います。盛り上がらないゲームが多いということは審判技術が良くないからとも云えるでしょう。ミスジャッジが多くプレーヤーが不満を表するなど、大会を通して審判が良いとは言えませんね。スタミナ不足が目立ち、特に後半になるとスタートの遅れや判定のミスもあって、ベンチやプレーヤーからクレームをつけられる場面が何回もありました。

増田 以前の2人制から3人制になっているのですから、環境的には良くなっているはずなのに、ミスというか見えないところが多いですね。ラインを踏んでも笛が鳴らなかったり、近くの審判が笛を吹かないのに遠くから笛を鳴らしてみたりと、アンバランスが目立ちました。それにピリオドが終わった時の審判同士のグータッチなど見苦しい場面もありました。審判はもっと冷静で真剣にやって欲しいですね。



日比野 私たちが審判をしていた頃は、試合が終わると必ず反省会を開いていましたが、最

近では、そういったことがないように聞いています。ゲーム中同じプレーは二度とないと云われるほどバスケットのプレーは様々です。したがって先輩を含めていろいろな観点からの意見を取り入れながら技術の向上を図って欲しいものです。

増 田 2人制から3人制になったのだからより良くなっているはずなのに的確に笛が鳴っているなという印象が少ないです。先ほどの日比野さんの話ではないですが、昔は新聞記者でも審判に対して試合後に意見を云うことができる雰囲気がありましたよね。プレーヤーは確実にレベルアップしているのに、審判はただ笛を吹いていればいいという雰囲気、ゲームが盛り上がらない一因になっているのではないのでしょうか。

黒 川 男子準決勝の試合では両チームのコーチが必要以上に判定に不満を露わにして騒いでいたにも拘わらず、審判は何の処置もしませんでしたがあれは見苦しいですよ。自信を持って判定していたのなら、行き過ぎた行為に対しては毅然とした態度でテクニカルファウルを宣すればいいと思います。

日比野 全く同感です。なぜテクニカルファウルがとれないのか不思議なくらいです。ゲーム中行き過ぎたクレームに対しては、それなりに対応すればいいのにそれもしないから更にクレームがエスカレートしゲームコントロールができなくなる。3人制になったのだからその利点を生かしてゲームコントロールすればいいのに、お互いにお任せモードが強く3人の力になっていない。それと審判が男女入り混じった場合などはどうしても走るスピードに差が出てしまうような欠点もあり、改善と努力が要求されます。最近はこの審判なら大丈夫だという安定した人が少ないです。

佐 藤 審判員の数を全国的に増やそうとした時期がありましたが、レベルアップの面ではどうなのでしょう。

増 田 レベルの点ではアップしていない印象ですね。人数が増えても全体のレベルが上がらないから皆さんが云われるような状況が生まれてしまうのではないのでしょうか。プレーヤーの技術がアップして判定が難しくなっているのかも知れませんが、当然笛が鳴るべきプレーもそのままにされてしまうケースが多々ありました。判定がプレーに追いついていない感じでした。それと試合の流れをみながらゲームコントロールすることも必要なのではないのでしょうか。

従 野 ルールの解釈が以前と違っているのかなという判定が目立ちました。特にトラベリン



グの判定は審判によってバラバラといった印象を受けます。高校の大会などは審判の判定がその後のプレーヤーのレベルアップに大きな影響を与えますので、きちんと統一した形でやって欲しいと思います。それには中堅より下の審判員に対するレベルアップが必要でしょう。プレーが激しくなっているいろいろな場面が現れるのに対して、審判が激しさについ

ていけないケースがよくあります。審判ほど割に合わない仕事はないと云われるほど大変な立場ですが、逆に云えば審判がバスケット技術の向上にも大きな力を持っている訳ですから。

佐 藤 次にこれからのバスケットボール界を更に発展させていくにはどのようにしたら良いのかについてお話をお伺いします。

増 田 私が現場にいたころ、ミニバスで初期の全国大会に全ての県からの参加とならず苦労したのですが、最近では沖縄から北海道まで全都道府県から代表チームが参加するようになっています。経済的に若干恵まれてきたことと、小学生のバスケットに人気が出てきたことなのだと思います。しかしミニバスの会場を見ていると、バレーボールの関係者がミニバスの長身選手たちを勧誘しているではありませんか。あれだけミニバスをやる子供たちがいるのに、中学、高校へと進むにしたがってバレーボールやサッカーに転向してしまうといった現象を何とかしないといけません。アジアにおいて中国や韓国では小さいころから連続的に英才教育を徹底しているようです。日本でもエンデバー制度により多少は改善されていますが、まだまだ徹底することがあると思います。ましてや他のスポーツ種目に転向されるといったことは、何とかして防いでいかなければなりません。

日比野 全く同感ですね。小さいころは人口的にもバレーよりバスケットの方がはるかに多いのに大きくなるにしたがってバスケットの方が減ってしまう。最近ではサッカーに行ってしまう子供たちも多いようです。

増 田 オールジャパンでも1～2回戦くらいは小中学生を無料招待して一緒に来る親は入場料を半額にしてもいいのではないのでしょうか。昔は学生の東西対抗戦ですら代々木第二体育館が満員になっていたことがありましたが、これとても主催者がいろいろと工夫努力しての結果なのだろうと思います。集客に工夫努力すればまだまだ入場者が増えるでしょうし、それによってメディアへの露出も増えてもっと大会が発展するのではないのでしょうか。

黒 川 男女とも決勝戦は満員に近い状況でしたが、それまでの試合にどうやって観客を集めるのか創意工夫すべきですね。

従 野 小学校、中学校、高校の指導者を育成することも必要だと思います。私は手弁当で指導者育成をお手伝いしていますが、指導者の数が不足していることと質が悪い状況です。子供たちに対する教え方が一方的で、教えているときもやたらに怒鳴ってばかりいるから、それが子供たちに影響してバスケットボールは面白くないという印象を与えてしまう。この練習は何の目的をもってやるのかとか、良いところはどんどん褒めるとか、相手に理解させながら練習すればいろいろなことがもっと早く身につくと考えます。小学生のバスケット人口が多いのに、中学、高校になると減っていくことは大変残念で、教え方にも問題があるように思えます。バスケットをやる子供たち全てが、シュートが上手とか、ドリブルが得意とかではありませんので、それぞれの得意なところを見出して特徴を生かせるような育成を心がけるべきで、一律に同様のやり方で教えようとするとうまくいきません。こうした指導者の資質向上によって底辺が拡大し、やがては普及発展が図られるのではないのでしょうか。



増 田 現在のままですと英才教育をやっている韓国に勝つことは容易なことではないと思われます。

従 野 バスケットボールを魅力あるスポーツ、好きなスポーツにしていけないといけません。子供が好きなスポーツだったら親も参加してくれますし、ウィンターカップなどは一

人の選手に対して親ばかりではなく親戚などを含めて 5～6 人くらい観戦に来ていますから参考にするべきでしょう。

黒 川 現在指導している方々は、自分たちがかつて教えてもらったことを咀嚼しないでそのまま子供たちに教えようとしている傾向がありますが、現代ではなかなか通用しないと思うのです。理論や目的などを詳しく説明しながら教えれば子供たちも努力するでしょうし、バスケットに更なる興味を示すと思います。日本協会で行っているエンデバーは素晴らしい制度で、最近では若い年齢層の国際大会でよい結果をもたらし、光明が見えているようです。

増 田 アマチュアスポーツで人気を得るための第一はオリンピック出場です。日本の場合オリンピック出場は避けて通れないことなのです。今、日本協会でもオリンピック出場を目指して努力しているようですが、もっとエンデバー制度を活用して強力に進める方がいいですね。隣の韓国は総人口で日本より少ないのに、バスケットでは日本より勝っていますが、目的意識の相違と一環教育の違いではないのでしょうか。

日比野 選手の強化も必要ですが、試合の中でいろいろな技術に影響する審判の育成も必要だと思います。審判の笛が日本の技術レベルにも影響しているということを、審判員たちは自覚すべきです。かつては日本がオリンピックに出場しなくても、審判だけは国際的に認められてオリンピックにノミネートされていたほど、日本の審判は優秀だったのに残念です。

従 野 日本は男子世界選手権大会まで開催したのに、国際的にあまり認められていない感じがします。これからは国際関係を強固なものにするため、世界のバスケット界におけるロビー外交的なことも必要でしょう。

佐 藤 本日はいろいろと貴重なご意見をいただき大変有難うございました。話された内容をまとめてバスケットボールプラザの誌面を通して発表させていただきます。



ウィンターカップ2010

第41回全国高校選抜優勝大会結果

[編集部]

全国高校選抜優勝大会（JX-ENEOSウィンターカップ2010）は、昨年12月23日から29日まで東京体育館において男女とも50チームが出場して開催された。

会場の東京体育館は連日数千人の観客であふれていたが、特に大会後半の人気は相当なもので、2～3階席とも席が埋まるほどでありこの大会の人気のほどを現していた。

男子は北陸高校がツインタワーの長身選手を駆使して、2回戦でインターハイ優勝校の八王子高校を破って快進撃を続け、念願の初優勝に輝いた。女子では札幌山の手高校が他校に抜きん出た戦いでインターハイ、国体に続いて優勝し高校三冠の座を勝ち取った。

[男子決勝戦]

両チームとも外国人留学生を擁して戦ったが、得点が伸びず接戦の割には物足りなさを感じさせる試合となった。北陸高校は第1ピリオドから最後まで相手にリードされることなく、自分のペースで試合を運んだ。福岡第一もディフェンスを変化させて食い下がり、第4ピリオドに一時4点差まで迫ったが及ばなかった。この試合のシュート成功率を見ると3Pシュートはともかくとして、2Pシュート成功率が40%前後というのはいただけないし、フリースローの成功率60%というのも詰めが甘い試合展開といってよいだろう。ターンオーバーでみれば北陸8に対して福岡は15で、やはりミスの多かったチームが敗れた形となった。

シュート確率とターンオーバー

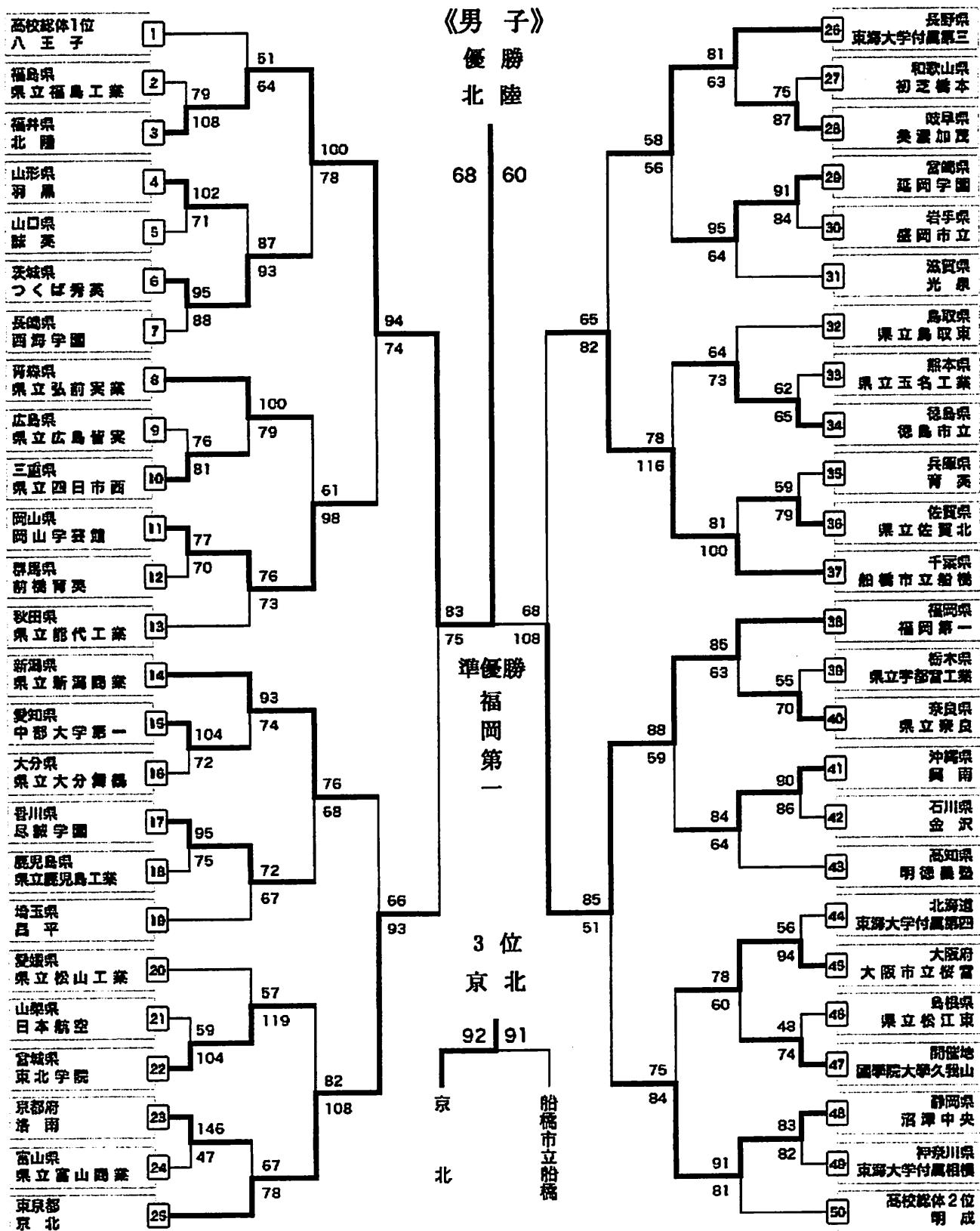
種 別	北陸高校	福岡第一高校
3Pシュート	31.6%	23.1%
2Pシュート	38.1%	41.9%
フリースロー	60.0%	60.0%
ターンオーバー	8	15

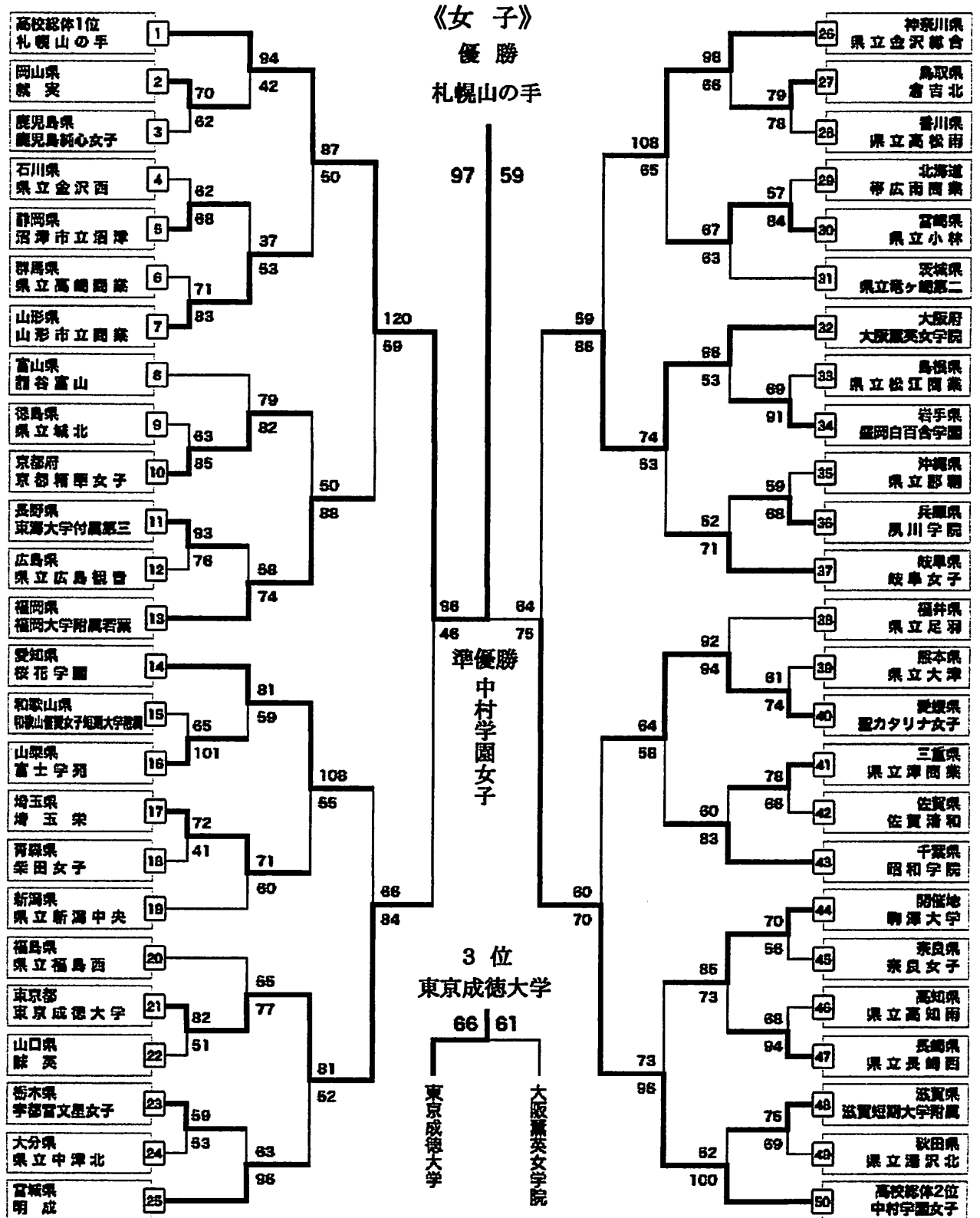
[女子決勝戦]

インターハイ、国体に続いて同じチーム同士の決勝戦になったが、結果的には札幌山の手高校のワンサイドゲームとなった。試合は第1ピリオドこそ競り合う形だったが、その後は札幌山の手が身長の高さに加え、速くて緻密なプレーで圧倒的に優位に立って試合を進めた。中村学園はハーフコートゾーンなどディフェンスをめまぐるしく変えて対抗したが、オフェンス時のミスも影響して得点が伸びず結果的に38点差となってしまった。男子の決勝戦に比べて札幌山の手2Pシュート確率が高いところは注目され、インサイド、アウトサイドとも決めるべき時にきちんとシュートを入れることが勝利に大きくつながることが裏付けられた結果である。札幌山の手高校が、国体を含めて三冠を達成した力は見事といたい。高校生らしい試合運びで平素の練習の成果が実った形だが、これまで独壇場だった愛知の桜花学園に替わって高校女子界に新しい風を巻き起こしそうである。

シュート確率とターンオーバー

種 別	札幌山の手高校	中村学園高校
3Pシュート	28.0%	12.5%
2Pシュート	68.1%	42.8%
フリースロー	66.7%	100.0%
ターンオーバー	15	23



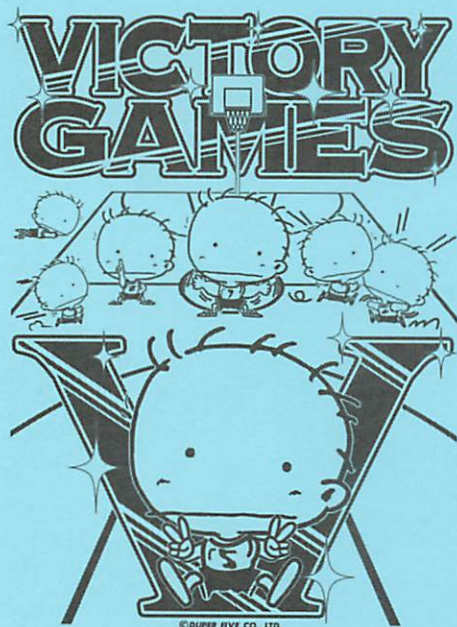




DUPER®



表現の自由人。



DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp